

会議議事録

会議名	2024年度第1回医療事務分野教育課程編成委員会
対象学科	医療秘書科・医療事務IT科・診療情報管理科
開催日時	2024年7月29日(金) 14:00~16:00
場所	本校4階404教室
出席者 (敬称略)	<p>①企業等委員：須貝和則(国立国際医療研究センター医事管理部長)、町田洋治(東京都済生会中央病院事務次長代理) (計2名)</p> <p>②本校委員：川口拓也(校長)、村山由美(医療秘書科学科長)、石澤雅子(医療秘書科副学科長)、川畑亮子(医療事務IT科・診療情報管理科学科長)、江崎侑子(診療情報管理科教員)、榊原幸之(事務局長)、(計6名)</p> <p>オブザーバー：前田律子(副校長)</p> <p>③事務局：土方雄太</p> <p style="text-align: right;">(合計9名)</p>
欠席者	直井智之(東大和病院事務部長)、山室靖(東京衛生アドベンチスト病院医事課 課長)
配付資料	<p>資料1：2023年度第2回医療事務分野教育課程編成委員会議事録案、□資料2-1：2023年度重点目標と達成するための計画・方法(年度末点検)、資料2-2：2023年度第2回委員会以降の主な経過報告、資料2-3：2023年度就職状況報告、資料3：2024年度重点目標と達成するための計画・方法、□資料4：2024年度医療秘書科・医療事務IT科・診療情報管理科カリキュラム ※2024年度医療事務分野教育課程編成委員会名簿(当日配付)</p> <p>印刷物資料：2024年度講義要項(当日配付)、2025年度学校案内(当日配付)</p>
議長	川畑学科長
議題等	<p>1. 事務局より今年度委員の確認(当日配付)</p> <p style="padding-left: 2em;">事務局より資料及び今年度の委員名簿について確認が行われた。</p> <p>2. 校長挨拶</p> <p style="padding-left: 2em;">川口校長より、教育課程編成委員会は高等教育無償化の要件の一つであり、外部の先生方からカリキュラムや学科について意見を承る大切な機会である。</p> <p style="padding-left: 2em;">医療系学科は、人手不足と相まって5月の段階で希望する者が全員就職した。傾向としては、大学病院や大規模病院からの求人が多かった。今年度も4月、5月は毎週のように学内で説明会を開催するなど、かなり早いペースで採用活動が進んでいる。</p> <p style="padding-left: 2em;">2年生の大きな検定はほぼ終わり、今日で前期の授業も終了する。いよいよ病院実習でお世話になる。中だるみが怖い、卒業までにさらに上の級もチャレンジさせていきたい。</p> <p style="padding-left: 2em;">一方で、志願者減は厳しい状況にある。我が校のみならず、この分野自体の認知が下がっている。いかにして病院事務職の志願者を増やしていくか、ご意見をいただければと思っている、との挨拶が行われた。</p>

3. 前回委員会議事録の確認（資料1）

事務局より前回議事録案について諮ったところ、訂正事項はなく、個人情報に留意した形で公開することが確認された。

4. 2023年度第2回委員会以降の主な活動報告について

(1) 2023年度年度末点検報告（重点目標と達成するための計画・方法について）（資料2-1）

川口校長より資料2-1に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(2) 2023年度第2回委員会以降の主な経過（資料2-2、2-3）

榑原事務局長より資料2-2、2-3に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 2023年度の重点目標と達成するための計画・方法について（資料3）

川口校長より資料3に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 2024年度生カリキュラム編成等について（資料4）

榑原事務局長より資料4に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 次回日程、その他

事務局より、次回の委員会は来年2月頃を予定し、10月以降に日程を調整することで了承された。

以上

2024 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 2023 年度第 2 回委員会以降の主な活動報告等について

(1) 2023 年度年度末点検報告（重点目標と達成するための計画・方法について）（資料 2-1）

○川口校長より、資料 2-1 に基づき以下の報告が行われた。

- ①学生確保は、残念ながら前年度を下回った。少子化に加え、看護を含め医療福祉分野が大きく減っている。特に、東京都は四大志向が強まっており、学生募集に影響している。
- ②社会人対象の既卒者プログラムは、医療事務の講座にニーズがある。留学生については、医療事務 I T 科で初めて受け入れた。今後、看護補助職で外国人の雇用が進む動きがあるので、その人材の養成はできるのではないかと思っている。
- ③他学科になるが、今年から 1 人 1 台のタブレット利用が始まった。デジタル人材育成の足がかりができた 1 年と総括できるかと思う。

(2) 2023 年度第 2 回委員会以降の主な経過（資料 2-2、2-3）

○榊原事務局長より、資料 2-2、2-3 に基づき以下の報告が行われた。

- ①6 月 29 日に学校関係者評価委員会（第 1 回）を開催した。
- ②前年度の退学率は 4.6%で、目標の 3.5%を大きく上回った。
- ③就職活動は良好で、前年度に続き高い数値を達成した。
- ④学生募集状況は、出願者は前年よりも減少した。また、今年のオープンキャンパス参加人数も減少している。
- ⑤留学生の入学者は年々増えていく傾向にある。

5. 2024 年度の重点目標と達成するための計画・方法について（資料 3）

○川口校長より、資料 3 に基づき以下の報告が行われた。

- (1)学生確保を最大の課題とし、各学科のカリキュラム及び学科ラインナップの検討を行う。
- (2)社会人・既卒者向けプログラムは、短期教育で実績を上げることが課題となる。
- (3)日本語学校との連携を強化することに加えて、産学連携して学生を集めることが課題になってくると思う。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>*全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出願率の減少は厳しい。日本人の 18 歳が入らないのであれば、社会人か外国人に行くしかないが、外国人留学生を医療系に移していくには時間が必要だと思う。 ・養成施設も少なくなり、やがて病院に人材を送り出せなくなる可能性がある。大学生も採れなくなっている今、病院はどのように人を採用するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・募集すれば応募はある。 ・基本給で比較されると厳しい。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師事務に人気があるという話を聞くので、そこに特化した教育をすとか、社会人を短期間で養成して、就職のあっせんをするとよいかももしれない。 ・ 医療系ではない大学生を採用しているが、どのように教育しているのか。 ・ 医事課の求人は減っていくと思う。 ・ AIを使う仕事は一握りで、やはり優秀な人間は必要。一番増やしたいのは現場に入れる事務だと思う。 ・ 説明会や見学に行かせてもらうのは大事で、自分のやりたいことがやれないと早期退職のルートに乗ってしまう可能性がある。 * 診療情報管理科 ・ 今年の管理士の求人はどうか。 ・ 逆に、管理士資格を持っていても、ローテーションするところもあるかもしれない。(・ 管理士をいろいろなところで使おうという動きがあるが、文章の読み書きなど、基礎的な事務能力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師事務は求人も多く、医事課より給料がよい。その分、仕事は忙しく、責任もあると説明はしているが、思っていたよりも難易度が高くて休職や退職につながる学生も多い。 ・ 医療秘書科も概論だけ勉強した学生が医師事務として採用され、ついていけないケースがある。 ・ 現場で一からたたき上げていく。 ・ その結果、メンタルで長期の休みに入る人が一定数いる。 ・ 退職を考えると2人ぐらいは入れたいと思うが、できれば増やさずにRPAなどを使っていきたい。 ・ 電子処方箋が普通になり、保険証もなくなると変わっていくかと思う。 ・ 数は多くないが、管理士資格を持っている人を優先的に採用したいという病院はたくさんある。 ・ 大学病院は、総合職のように2年に1回はローテーションで回すという求人が多い。管理室だけを希望する学生も一定数いるが、ローテーションすることのよさも伝えている。 ・ アジェンダが書けるような教育が必要ということかと思う。
--	---

6. 2025年度カリキュラム編成等に関する意見交換（資料4）

○榊原事務局長より、以下の報告が行われた。

募集状況が厳しい状況に鑑み、教育の効率化を図っていく必要があると考えている。そのため、本年度はまだカリキュラムが出来上がっていない。方針としては、総時間数を1,760時間、1年次と2年次の週のコマ数、同じ資格を目指す科目の名称や実施時期の共通化を図る。また、最低1割程度は外国人留学生に入学してもらいたいので、例えば1年次の4限目は日本語教育の時間帯に充てるなど、コマ数の制限を作っていきたい。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>*全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学した留学生の就職が気になる。どのような場面で活躍できるのかを伺いたい。 ・日本の医療、社会保険制度を理解している人が、通常は別の業務をしながらインバウンドやツアーリストが来たときに対応するというニーズはあると聞いている。 ・日本の医療制度や社会保険の仕組みが分かっている、デジタルにも強い人材ということか。 ・本校のカリキュラムは診療報酬の割合が多い。他校はIT系を入れて楽しそうなカリキュラムを組んでいる。病院の職員になるための基礎知識として、診療報酬はどのくらいのボリュームが適切と考えるか。 ・手書きのレセプト作成は要らないのではないか。 ・それをやることで早見表や社会保険関係の本もすぐに引けるのであれば、否定はしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今は中国人が非常に多いので、中国語がしゃべれる事務員はいろいろなところで活用できると思う。 ・医事課と兼務しながら、医療ツーリズムを巻き込んでいくと、お互いに知識もついてよいと思う。 ・病棟の事務に日常的な会話ができる人や掲示物の作成、表記のチェックができる人がいるとよい。 ・日本の文化等も教えたほうがよいかもしれない。 ・他の部署から医事課に来る人もいるが、最低限、保険の知識があれば育てていける。 ・今はレセプトを手書きしている病院はなく、チェックソフトが扱えればよいという話にもなるが、チェックするためにも基礎からやらないといけない。 ・レセプトを書く作業だけになって、その先のことが分からない学生が多い。病院経営的に、点数を高く取るために大事なこともなども教えていかなければいけないと思う。

<p>*全体</p> <ul style="list-style-type: none"> レセプトチェックは、大学生よりしっかりしている。そこは伝統として持っていたほうがよい。 病院は全部診療報酬で出来上がっているので、施設基準を理解していることが求められる。レセプトの監査のときに必要な書類をすぐ出せるぐらいまで教えるとよいかもわからない。 請求の流れを知って、最終的に査定が経営的にどうつながっていくかを理解させるとよい。 <p>・カルテ読解と医事コンピュータ演習、電子カルテ演習は同じような分類に見える。</p> <p>・学生を集めて、病院に送り込むには、学校だけの力では限界が来ている。病院の仕事の魅力を分かってもらうために、高校生に施設を見学させてもらうことはできないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> チェックの授業で一通り説明はしているが、かなり時間がかかる。 <p>・それぞれ目的が違うものではあるが、1本につなげられるとよいかと思う。</p> <p>・魅力ある職場にしないと人は集められないと思うが、なかなか厳しい。</p> <p>・当院では、高校生の職場体験で何十人か来て、医師が一生懸命教えている。医療事務や管理士も高校生に見てもらってもいいかもしれない。</p>
---	--